（別紙4）　　令和　2　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4390101774		
法人名	社会福祉法人　聖母会		
事業所名	グループホーム　聖母の丘　ゆうかりユニット		
所在地	熊本市西区島崎6-1-27		
自己評価作成日	令和　3年　2月　11日	評価結果市町村受理日	令和3年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人　九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和3年 3 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然豊かで明るい環境の中、入居者が穏やかに安心して過ごされる支援を目指している。その為に職員は入居者の方々と毎日楽しくコミュニケーションをとりながらその方の想いを傾聴し、寄り添い、望む生活ができるよう支援している。毎年。入居者の生活状況を家族会や地域運営推進会議等で報告相談していたが、今年度はコロナ禍の為、地域運営推進委員へは2ヶ月に一回、書面にての活動報告を、ご家族には毎月写真付きのお手紙で入居者の近況をお伝えしている。更には個別ケアで課題が生じた時には職員間で話し合い、ご家族に適宜相談報告し、ご家族の想いを伺いながらご家族と共に入居者を支え合う関係づくりに重点を置いて支援している。入居者の重度化、高齢化により、ご本人やご家族の希望で看取りに取り組み、職員・ご家族、医療関係者と何度も話し合い、協力しながら「ご本人やご家族が望む最期の時」を過ごすことができるよう支援してきた。今後も認知症ケアの専門性を職員個々が高め、職員同士認め合い、支え合いながらより良いチームケアができることを目標とし。更には地域密着型の施設としてコロナ禍が落ち着き安全な環境が確認できたら、これまでのように地域の小中高生の職場体験学習を受け入れたり、ルルドカフェ等をとおして地域の人々に認知症の方の理解や介護について啓蒙活動を充実していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開設5年を迎え、職員支援の中、穏やかに生活されている入居者の姿が見える事業所でした。例年、年3回の家族会や日帰り旅行、地域住民や保育園児・小学生との交流等、多様な関わりが行われています。今年度は感染症予防の面から生活が一変し、様々な面での苦労も聞かれましたが、そのような中でも入居者と家族の関わりを変わることなく支援し、面会方法を工夫したり、地域からの来訪を感じる取組み等が見えました。職員面談でも「入居者への寄り添い」「関わり」の言葉が聞かれ、日頃のケアに臨む姿勢を感じました。入居者は習字や編み物を楽しんだり、テレビでのスポーツ観戦等で思い思いに過ごす様子があります。年々入居者の高齢化・重度化も見られますが、自己決定の場も大切にされています。家族アンケートにおいても、入居者へのケアや家族への対応等に満足度の高い結果がありました。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	4月8日	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を自然な形で意識付けできるように、玄関やキッチン等に掲示している。また、グループホーム部会時に職員皆で唱和を行い、その理念を共有して実践につなげている。	入居者へのケアを表す理念は、職員入職時に管理者より説明し、事業所内の掲示、部会時の唱和等により共有している。理念は入居者の寄り添い、家族や地域との絆を大切にし、職員間の支え合いを示しており、日々のケアの姿を表している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウィルスの影響で限定的な活動しかできなかったが、地域の方が事業所の畑を利用して野菜を作られたり、隣接する幼稚園の子供たちが芋の苗植えから収穫まで行われたのでその様子を見守り交流した。	例年、地域の小学生や幼稚園児との触れ合い、建物内のホールの貸し出し、地域住民によるボランティア訪問等が行われている。今年度は感染症予防の面から直接の触れ合い・交流は難しい状況であったが、ホールの貸し出し、畑を利用する幼稚園児来訪の声を聞いたり見守り等で、入居者との交流を継続した。畑では地域住民の姿が見られることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の相談相手として支援の方法やささえりあ及びケアマネジャーなどへの連絡方法などの情報を伝えたり、認知症関連の情報誌等を準備して活用しているが、コロナ禍のため満足にできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・民生委員・ささえりあ職員・家族代表の方々、時には利用者も参加し1回／2ヶ月開催していたが、今年度はコロナ禍にて、利用者の生活状況や活動内容・事故・苦情等の報告を2ヶ月に1回書面にて行っている	例年2ケ月に1回の運営推進会議は、今年度は感染症予防の面から開催が難しく、事業所の取組みや写真による入居者の日々の様子を書面で報告した。今回の外部評価に関して自己評価を送付し、意見を求めた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	熊本市の介護相談支援員による月1回の来所もコロナ禍で実施できていない。厚生労働省や市からはコロナ感染についての対応方法やマニュアル動画等の案内及び指導等が適宜発信されているので、職員に回覧等で周知している。	例年、地域包括支援センターからの運営推進会議出席時には事業所の取組みや入居者の様子を伝え意見交換の場と活かしており、熊本市介護相談支援員の来訪時には入居者との触れ合いで意向の把握を行っている。今年度は感染対策等での情報提供・収集が主であった。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、玄関周辺に職員がいない事も多く目が届かない現状でもあり、建物の構造上防犯・安全対策としても施錠がなされている。	現在身体拘束は行われていない。身体拘束廃止対策として、「出来るだけ行わない方針を保ち、どうしても必要な場合は緊急性・非代替性・一次性の要件と家族の同意を取って行う」と定め取組んでいる。毎年の勉強会は継続しており、管理者より職員へ「安全対策と身体拘束」について具体的例を挙げ、取組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてオンライン学習教材を活用して学ぶ機会があり、言葉遣いに留意したケアを行っている。職員個々については虐待についてのアンケートが事業所全体で定期的に行われている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者1名が成年後見制度を利用している為、制度について学ぶ機会が生じている。ご家族や後見人と適宜確認しながら連絡調整を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結は計画作成担当者および管理者が行ったが、契約内容については職員にも説明が行われている。介護保険制度改定時にはご家族に対して丁寧に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍において可能な限りご家族来所時に日頃の様子を伝えて意見や要望を確認したり、各居室担当者からも適宜ご家族に電話をかけて情報交換を行い連携を図っている。又、玄関に意見箱の設置も行っている。	理念に「家族との絆」が謳われている。感染症予防の面から家族参加での行事や日帰り旅行等、例年行われて来た取組みが難しい状況の中、家族への電話連絡や面会方法の工夫に取組み、意見・要望を表す機会を持った。外部評価での家族アンケートでも連絡が密であることが窺え、家族の安心感にも繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月部会や勉強会を行い、意見交換の場を設けている。また職員との面談が年に一回実施されている。	法人全体での職員会議、ユニット会議である部会等で意見や提案を表す機会を設ける他、日常業務の中でも管理者へ意見を述べることができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算の届け出・、有期契約職員から正職への登用、有給休暇の取得消化、研修への参加奨励等、職場環境・条件の整備に努力がなされている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で職場全体で集まる内部研修は実施されておらず、外部研修への参加も出来ていなかったが、今年度よりネット配信の研修が利用できるようになり、事業所内で利用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で同業者間での研修や懇談会に参加していないが、熊本県地域密着型サービス連絡会の情報書は職員に回覧している。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新入所が2件あり入所前及び入所時に、ご本人と面談し、本人の困り事や不安・心配事などを聞き取り、職員間で情報を共有し、観察を十分に行いながらコミュニケーションを取り、信頼関係作りに努めており、不安等の声は聞かれていない。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や困り事、要望などを事前に伺い、入居後も話に耳を傾けながら、安心してもらえる関係づくりに努めており、新しく入所されたご家族からも不安等は聞かれていない。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活環境が変化することで、不自由なこともあるかと思われるが、日常生活に必要な支援（歩行器具の検討等）をすることで生活の継続ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や洗濯物干し、掃除等共に実施しており、家庭で生活していた時にやっていたであろう生活動作は、積極的に実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウィルスの影響のため外出等は出来なかったが、生活用品等の補充依頼や受診付き添い等の依頼は継続できている。面会を希望された時は、感染防止対策に十分に留意して行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や入居前に利用していた病院や、ドライブなどの外出をご家族に協力を得ながら途切れないように努めている。家族との外出は、受診以外はできなかったが、施設周辺の散歩には、出掛けることが出来た。	何よりも家族・知人との関係継続の支援を大切にしている。今年度も感染症対策をしながら面会方法を工夫し、支援を行った。ホーム創設の根幹や法人理念に愛着を持っている入、立地の環境に心和む人、ホームの雰囲気が好きな人等、馴染みや関係をより大切にして一人ひとりの支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の人間関係や性格を理解し、トラブル（口論等）が起こらない様に配慮している。リビングや食堂で会話がゆっくりとできる環境づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度は、慰霊祭への参列が新型コロナウィルスの影響でできなかったが、事情をお伝えしたお手紙をご遺族の方に差し上げている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方の希望や要望に対しては聞き取りが可能な為、できる限り聞き取りを行い希望や要望に沿うようにしている。。意向の把握が難しい時はご本人の仕草や動作で読み取り本人本位になるよう職員間で検討している。	開設5年が経ち全体的に高齢化も進んできたこともあり、会話による意思疎通が難しい入居者も増えてきた。職員の日々の寄り添いや対応で意向を把握し、家族へも状況を伝え意見を得ている。意向は検討し、必要であれば日々のケアや介護計画に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人差はあるが、自宅から私物の持ち込みや、本人やご家族からの以前の話などから状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の変化は日々の経過記録等にまとめ、その時々の心身状態に合ったケアに努めている。散歩やレクリエーションなどを心掛け、気づきについては職員全員で情報共有に努めている。また、アセスメントの書式等の記入で情報把握に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に状況把握、気づいたことを報告している。また、ユニット会議やモニタリング等を通して、介護計画を作成している。	入居者それぞれに職員担当が決められている。毎月のユニット会議（部会）で入居者の状況について話合いを行い、職員からもケアに対する意見・提案を出し合っている。モニタリングは3ケ月毎に担当職員が行う。急な体調変化等は都度検討を行い、入居者にとって現状に即した介護計画となるよう変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の申し送りと経過記録や日誌の記入をしながらケアマネとの連携を図り、介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々にあった事案については柔軟な対応が出来る様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウィルスの影響で、外部に向けての活動や地域との交流はできなかったが、幼稚園児との交流活動は出来た。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続してもらい、受診時には近況を担当者から病院やご家族へ伝えたり、必要に応じて付き添いを行う等柔軟に対応している。又、急変の可能性(看取り希望）がある方については、本人及びご家族の意向を確認しながら訪問診療への利用を支援している。	入居前のかかりつけ医の継続した受診を支援している。通院による受診が必要な際は、基本的に家族による付き添いを依頼している。家族による通院が難しくなった際には訪問診療の利用も可能で、看取り期には24時間対応の訪問診療を利用される例や、訪問看護の利用例もある。歯科医は週1回訪問があり、食事形態の相談も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も介護現場に入っている為、連携は普段から取っており、内服等の相談、調整や受診時に上申している。訪問診療および訪問看護のスタッフとも連携している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には日常の生活情報等を提供するとともに、早期退院に向けて病院関係者との情報交換に努めている。又、退院してからも当事業所で安心した生活を送る事が出来るよう、訪問診療・訪問看護事業所等との情報交換を密に行い、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時の契約時に当事業でできる支援の内容を書面で説明し、ご本人やご家族の希望を確認している。また、ご本人の病状や心身の状態変化に応じて、適宜、ご本人やご家族の想いに変動がないか確認するとともに、医療関係者との連携を図りながら必要に応じて訪問診療・訪問看護へと移行し、介護職員もチームの一員として安心した支援ができるようになっている。	実際にその時を迎えた際には医療機関や関係者での話合いを重ね、支援を行っている。家族へも都度事業所での対応・支援にする意志を確認している。家族の希望もあり、医師協力のもと最期まで家族とともに過ごす例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会の実施やマニュアルの作成を行い、各ユニットに配布している。今後も勉強会を継続していく。今年度は、新型コロナウィルスの影響で、オンライン学習が中心である。定期的に緊急連絡先の確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間想定の火災訓練の実施と反省点を基にマニュアルの作成を行っている。訓練は聖母の丘全体で取り組み他事業所職員も参加して、共に訓練を実施している。	今年度は事業所単体で通報訓練を行い、入居者参加で誘導を行った。法人では年3回非常米の作り方を試す機会を持つ。事業所では非常災害対策委員会の取組みで、機器の場所確認や手順の再確認を行うよう自主点検の振り返りを行った。昨年は台風対策を振り返り、職員間で気づきを共有した。	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンスやユニット会議、勉強会などで声掛けについて見直し、職員同士で工夫しながら個々に合った言葉かけを心掛けている。	ユニット会議（部会）や勉強会を利用し、入居者一人ひとりの尊重とプライバシーの確保について学んでいる。日常業務の中では、職員の強い口調等が見られる際には都度管理者から注意を促し、ケアに臨む姿勢等を振返っている。特に排泄時や朝礼時の言葉遣いには日頃から配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を尊重し、日課的な生活ではなく、本人が自己決定出来るように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いや希望を尊重し、日課的な生活ではなく、本人が自己決定出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に衣類を選んだり、化粧品の使用やこれまで慣れ親しんだ生活用品を使用している。散髪や染毛なども入居者の希望に応じてご家族と相談しながら職員が支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備（おやつ作り等）や配膳、下膳に係り、生活感を味わってもらっている。	朝食は配食、昼・夕食は法人と同じ献立にて調理室で手作りされた食事を提供している。入居者の様子は本館職員へ伝えられ、個々の栄養面や行事食のリクエスト等は事業所からの相談で連携を図っている。ご飯は事業所で炊飯しており、硬さも数種対応している。飲み物提供時には希望を尋ねたり、行事時には希望でノンアルコールを提供する場も作り、選ぶ楽しみも作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	味付けの工夫や、食事の際はテーブルに急須を置き自由に飲めるようにし水分摂取を促している。また食思が低下している方に対しては、好みを理解し、ご家族と協力しながら、食べられる物の提供を心掛け状態に対応した食事形態の変更も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	習慣として口腔ケアができる様に、毎食後声掛けを行って、できる事を理解した上で口腔ケアに繋げている。又、歯科往診にてその方に合った口腔ケアの方法の指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿・便意がはっきりされている方は、本人のタイミングで行っているが、パンツやパットの汚染確認や交換介助は行っている。	声掛けや入居者の様子による誘導で出来るだけトイレでの排泄を支援している。入居者それぞれの毎日の様子は記録し、ケアに活かしている。日中はできるだけ布パンツを利用し、夜間はそれぞれに合わせた対応を行っており、安易なオムツへの移行は行っていない。トイレは車椅子でも利用でき、臭気や清潔にも配慮している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士による献立作成により、バランスがとれた食事の提供や、自然排便が出来るように、個々に応じたトイレで排泄を行ってもらう様にしている。排便確認が不十分な時には、看護師にて触診してもらい排便の確認をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日での振り分けは行っている。時間帯（日中）や順番は柔軟に対応しており、浴槽の種類も本人の身体状況に合わせている。	週3回程度を基本とし、午前・午後とも入浴可能である。一般浴、座位が保てる方用、機械浴の3種の浴槽があり、全員が浴槽を利用できるよう使い分けしている。年々支援も必要となってきているが、出来るだけ入居者自身の持つ力を大切にした支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせた室温や寝具の調整を行っており、その人の希望や体調に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と居室担当者が、内服薬の把握と薬の使用及び効果について理解するように努めている。また、内服薬が変更された場合には、服用後の経過観察を行って病院へ報告出来るようにしている。手渡すだけではなく確実な服薬確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる事を理解した上での役割（洗濯・食器洗い・掃除等）を行ってもらっている。行事や散歩、カルチャ活動(作業活動）等、季節のある作品を制作し楽しんでもらうことで気分転換等の支援をしている。おやつ作りの実施(1回/月）。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年々、入居者のADLレベル低下が進み、日帰り旅行の実施も難しくなってきている。新型コロナウィルスの影響もあり、外出は受診時など必要最低限のみしか行えていない。前述にもあるように、施設敷地内においての屋外散歩は、気候を見ながら実施できた。	例年、通院を利用した家族との外出や計画行事による外出等を支援しているが、今年度は感染症予防の面から難しい状況であった。敷地は四季折々の木・花を楽しむことができる環境で、敷地内の散歩は日常的に行っている。車椅子利用も多くなったが、フロアに続くデッキでくつろぎ外気を感じている。春の温かさを楽しみに、近隣へのドライブやデッキでのお茶会等を検討しているところである。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にご家族へ確認したが、持たせておきたいというご家族がほとんどなく、ご家族管理としている。ご家族の希望で少額の預かり金を行い、適宜職員が日用品等の購入支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	食堂に電話があり、ご親戚の方からの電話を取り次いだり、希望があれば利用できるように支援している。又、年賀状を入居者の方から御家族宛に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除は、毎日行っている。清潔を保ち、屋外に咲いている花を飾り、季節感を取り入れている。しかし、トイレの電気が自動センサーの為に、入居者の方に馴染みがなく、混乱を招く事があるため、お知らせの紙を扉に貼っている。	玄関を中心に左右に位置する両ユニットは明るく、掃除も行き届いている。敷地内外には季節を彩る木・花が見られ、温・湿度、換気にも配慮し心地よく過ごすことができる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士でお話しできる様に、リビングにソファーを置いたり、居室からは外を眺める事が出来る様に吐き出し窓にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を持参して頂き、配置もご家族と共に行った。	居室入口には着物生地で作られた暖簾がそれぞれに下げられており、扉を開けた際のプライバシーへの配慮も見られる。持ち込まれた生活用品は以前から馴染みのある物で家族の関わりも感じる。洋風でありながらも鴨居もあり、和の雰囲気も持つ。地震に備えた家具等の配置にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーにし、トイレの場所が分かるように表示したり、居室入口にそれぞれの好みに応じた暖簾をつける事で、自立した生活が送れるように支援している。		

（別紙4）　　令和　2　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4390101774		
法人名	社会福祉法人聖母会		
事業所名	グループホーム聖母の丘　かえでユニット		
所在地	熊本市西区島崎6丁目1番27号		
自己評価作成日	令和2年2月19日	評価結果市町村受理日	令和3年4月8日□

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人　九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和3年 3 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然豊かで明るい環境の中、入居者が穏やかに安心して過ごされる支援を目指している。その為に職員は入居者の方々と毎日楽しくコミュニケーションをとりながらその方の想いを傾聴し、寄り添い、望む生活ができるよう支援している。毎年。入居者の生活状況を家族会や地域運営推進会議等で報告相談していたが、今年度はコロナ禍の為、地域運営推進委員へは2ヶ月に一回、書面にての活動報告を、ご家族には毎月写真付きのお手紙で入居者の近況をお伝えしている。更には個別ケアで課題が生じた時には職員間で話し合い、ご家族に適宜相談報告し、ご家族の想いを伺いながらご家族と共に入居者を支え合う関係づくりに重点を置いて支援している。入居者の重度化、高齢化により、ご本人やご家族の希望で看取りに取り組み、職員・ご家族、医療関係者と何度も話し合い、協力しながら「ご本人やご家族が望む最期の時」を過ごすことができるよう支援してきた。今後も認知症ケアの専門性を職員個々が高め、職員同士認め合い、支え合いながらより良いチームケアができることを目標とし。更には地域密着型の施設としてコロナ禍が落ち着き安全な環境が確認できたら、これまでのように地域の小中高生の職場体験学習を受け入れたり、ルルドカフェ等をとおして地域の人々に認知症の方の理解や介護について啓蒙活動を充実していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開設5年を迎え、職員支援の中、穏やかに生活されている入居者の姿が見える事業所でした。例年、年3回の家族会や日帰り旅行、地域住民や保育園児・小学生との交流等、多様な関わりが行われています。今年度は感染症予防の面から生活が一変し、様々な面での苦労も聞かれましたが、そのような中でも入居者と家族の関わりを変わることなく支援し、面会方法を工夫したり、地域からの来訪を感じる取組み等が見えました。職員面談でも「入居者への寄り添い」「関わり」の言葉が聞かれ、日頃のケアに臨む姿勢を感じました。入居者は習字や編み物を楽しんだり、テレビでのスポーツ観戦等で思い思いに過ごす様子があります。年々入居者の高齢化・重度化も見られますが、自己決定の場も大切にされています。家族アンケートにおいても、入居者へのケアや家族への対応等に満足度の高い結果がありました。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を自然な形で意識付けできるように、玄関とキッチンに掲示した。また、理念唱和も1回／月の部会の際に皆で行っており、理念を共有し実践している。	入居者へのケアを表す理念は、職員入職時に管理者より説明し、事業所内の掲示、部会時の唱和等により共有している。理念は入居者の寄り添い、家族や地域との絆を大切にし、職員間の支え合いを示しており、日々のケアの姿を表している。	職員面談時にも、理念について管理者より説明がされた様子が聞かれました。開設5年が過ぎたことを機会に、介護計画や日々のケアが理念に通じるものであることを振り返る機会作りに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウィルスの影響で限定的な活動しかできなかったが、地域の方が事業所の畑を利用して野菜を作られたり、隣接する幼稚園の子供たちが芋の苗植えから収穫まで行われたのでその様子を見守り交流した。近隣への買い物等は令和2年2月から実施していない。	例年、地域の小学生や幼稚園児との触れ合い、建物内のホールの貸し出し、地域住民によるボランティア訪問等が行われている。今年度は感染症予防の面から直接の触れ合い・交流は難しい状況であったが、ホールの貸し出し、畑を利用する幼稚園児来訪の声を聞いたり見守り等で、入居者との交流を継続した。畑では地域住民の姿が見られることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	令和2年2月からコロナ感染防止対策の為認知症カフェ（ルルドカフェ）やルルドホールを無償で提供し利用した方々の慰問を中止している。認知症の理解や支援方法を地域の人に向けて活かすことはできなかった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・民生委員・ささえりあ職員・家族代表の方々、時には利用者も参加し1回／2ヶ月開催していたが、今年度は利用者の生活状況や活動内容・事故・苦情等の報告を2ヶ月に1回書面にて行っている。	例年2ケ月に1回の運営推進会議は、今年度は感染症予防の面から開催が難しく、事業所の取組みや写真による入居者の日々の様子を書面で報告した。今回の外部評価に関して自己評価を送付し、意見を求めた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	熊本市の介護相談支援員による月１回の来所もコロナ禍で実施できていない。厚生労働省や市からのコロナ感染対策等についての通達文書が適宜発信されているので、職員に回覧で周知している。	例年、地域包括支援センターからの運営推進会議出席時には事業所の取組みや入居者の様子を伝え意見交換の場と活かしており、熊本市介護相談支援員の来訪時には入居者との触れ合いで意向の把握を行っている。今年度は感染対策等での情報提供・収集が主であった。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をテーマにした勉強会があり職員は参加している。建物の構造上防犯・安全対策も兼ねて玄関は常に施錠がなされている。歩行が不安定でも帰宅願望等で歩きたい方にはできるだけ付き添って歩けるよう支援している	現在身体拘束は行われていない。身体拘束廃止対策として、「出来るだけ行わない方針を保ち、どうしても必要な場合は緊急性・非代替性・一次性の要件と家族の同意を取って行う」と定め取組んでいる。毎年の勉強会は継続しており、管理者より職員へ「安全対策と身体拘束」について具体的例を挙げ、取組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	1回／年虐待防止について勉強会があり、言葉遣い及び職員同士が声を掛け合いお互い観察することで虐待の無い利用者の立場に立ったケアに取組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1回/年権利擁護に関する勉強会があり職員は参加している。ご家族から成年後見人の書類作成の依頼があったので対応した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規入所時の契約時は計画作成担当者及び管理者により十分な説明を行っており、理解・納得して頂いた。介護保険制度改定時にはご家族に対して丁寧に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に意見や要望を尋ねたり、家族の面会時には日頃の様子を伝え、意見や要望がないか伺い、それを反映させるよう努めている。コロナ禍で地域運営推進会議や家族会も開催できなかった為、通年より家族との意見交換の場が少なかった	理念に「家族との絆」が謳われている。感染症予防の面から家族参加での行事や日帰り旅行等、例年行われて来た取組みが難しい状況の中、家族への電話連絡や面会方法の工夫に取組み、意見・要望を表す機会を持った。外部評価での家族アンケートでも連絡が密であることが窺え、家族の安心感にも繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長及び管理者は職員会議やチームス（ネット掲示板）、部会等で職員に運営に関する情報を伝えており、職員の意見を聞く機会もある	法人全体での職員会議、ユニット会議である部会等で意見や提案を表す機会を設ける他、日常業務の中でも管理者へ意見を述べることができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	要望や意見がある人は管理者に面談を希望して言うことができる。それをもとに業務改善を検討し、職場環境を整えようと努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で職場全体で集まる内部研修は実施されておらず、外部研修への参加も1名しか出席できなかったが、今年度よりネット配信の研修が利用できるようになり、事業所内で利用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で同業者間での研修や懇談会に参加していないが、熊本県地域密着型サービス連絡会の情報書は職員に回覧している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人と面談し、入所時には本人から十分話を聞き、少しでも過ごしやすい環境の提供や安心するようなケアが出来るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時には遠方の家族にも来てもらい、家族とよく話をして、家族の意向を確認し、信頼関係ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にかかりつけ医等の医療面での対応をどうするか話し合っている。初回の受診時は職員も付き添って医師と連携を取れるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を介護される一方の立場におかないように、出来ることをお願いし、作業をして頂いた時には感謝の言葉を伝え、共に生活しているという事を感じてもらうようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を伝え、問題がある時はご家族の意見を伺うようにし、職員と家族で話し合いながら面会、受診や外出支援をすることなどを協力して本人の生活を支えている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外来受診以外のご家族との外出、自宅へ帰る等がほとんど出来なかった。馴染みの人から手紙や贈り物が来た時は本人に伝え、お礼の手紙や電話が出来るよう支援した。	何よりも家族・知人との関係継続の支援を大切にしている。今年度も感染症対策をしながら面会方法を工夫し、支援を行った。ホーム創設の根幹や法人理念に愛着を持っている入、立地の環境に心和む人、ホームの雰囲気が好きな人等、馴染みや関係をより大切にして一人ひとりの支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係性や性格を理解し、利用者同士が話せるような状況を作ったり、1人で居る時は声かけし、トラブルになりそうなときには、職員が間に入りお互いの想いを傾聴し安心するようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍で慰霊祭へのご案内が出来なかった。亡くなられたりして利用が終了しても、生前のお写真を渡せるようにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に思いや暮らし方の希望・意向を尋ねてケアプランにも反映させているが、重度化した為か、尋ねても返答の難しい方が多くなった。日頃の会話から読み取ったり、困難な場合も本人本位になるよう職員同士で検討して対応している	開設5年が経ち全体的に高齢化も進んできたこともあり、会話による意思疎通が難しい入居者も増えてきた。職員の日々の寄り添いや対応で意向を把握し、家族へも状況を伝え意見を得ている。意向は検討し、必要であれば日々のケアや介護計画に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新しく入居される方の情報収集には努めたが、長く入居されている方は重度化や認知症進行もあり、状態が変わっており、積極的に新しい情報をご家族に尋ねる事はあまり無かった。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定や心身の状態を観察し、チームで一人一人の状態の情報を共有し、現状の把握に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員・ケアマネ・家族が協力してケアプランの作成やモニタリングを行っている。利用者の状態の変化に合わせて必要時カンファレンスを行っている。	入居者それぞれに職員担当が決められている。毎月のユニット会議（部会）で入居者の状況について話合いを行い、職員からもケアに対する意見・提案を出し合っている。モニタリングは3ケ月毎に担当職員が行う。急な体調変化等は都度検討を行い、入居者にとって現状に即した介護計画となるよう変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全体で観察と気づきが大切であることを意識し、記録や申し送りに残して情報を共有しケアやケアプランに活かしている。気づきやケアの工夫は職員間で情報共有していた。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の重度化に伴い外来診療から訪問診療への移行支援や認知症専門外来受診時の支援を行う等、新たなニーズに柔軟に対応した支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、地域の方々の支援や交流がほとんどなかったが、可能な限り病院受診や美容室へ行ったりして頂いた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者がこれまでかかりつけにしていた医療機関を尊重し、状態変化があれば書面で報告したり、受診に同席する等して、医療機関との連携を密にしている。病院受診が難しくなった利用者に対しては、訪問診療の利用や状態悪化時には24時間対応できる医師への移行を支援した。	入居前のかかりつけ医の継続した受診を支援している。通院による受診が必要な際は、基本的に家族による付き添いを依頼している。家族による通院が難しくなった際には訪問診療の利用も可能で、看取り期には24時間対応の訪問診療を利用される例や、訪問看護の利用例もある。歯科医は週1回訪問があり、食事形態の相談も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	内服の管理、傷の観察など看護師と共に行っている。また、家族やかかりつけ医との医療的な報告も看護師と情報共有を密に行い業務に当たっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院前の受診や入院時に職員が付き添っており、情報書を提供したり、病院と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した為、外来受診を訪問受診へ変更の手続きを行い、事業所の方針を、ご家族・医師とも話し合いを行い、その都度家族の意向を確認し、看取りまでできるようにしている。チーム内でも状態に合わせてケアカンファレンスを行っている。ご家族と急変時にどうするかも話し合っている。看取りについての勉強会やグリーフケアカンファレンスも行っている。	実際にその時を迎えた際には医療機関や関係者での話合いを重ね、支援を行っている。家族へも都度事業所での対応・支援にする意志を確認している。家族の希望もあり、医師協力のもと最期まで家族とともに過ごす例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDは準備されているが、今年度は講習の実施やマニュアルの確認や訓練は実施されていない。急変に気づけるようにバイタルサインの勉強会は実施している。緊急搬送の際の連絡先などを準備しているが、入居者や職員も変わるので定期的な見直しは必要であるが、出来ていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間と夜間を想定した火災訓練を行い、その際に設備業者・隣の施設職員・地域の方にも参加してもらい協力体制を築いているが、全職員が避難できる方法を身につけていないため、GH独自の災害訓練を行う予定であったが実施できていない。次年度は行っていきたい。地震想定の訓練も行い、備蓄米の使用法や停電時の電源確保等の確認作業を行っている。	今年度は事業所単体で通報訓練を行い、入居者参加で誘導を行った。法人では年3回非常米の作り方を試す機会を持つ。事業所では非常災害対策委員会の取組みで、機器の場所確認や手順の再確認を行うよう自主点検の振り返りを行った。昨年は台風対策を振り返り、職員間で気づきを共有した。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応ができるように、勉強会を行ったり、職員同士で注意しあったりしている。	ユニット会議（部会）や勉強会を利用し、入居者一人ひとりの尊重とプライバシーの確保について学んでいる。日常業務の中では、職員の強い口調等が見られる際には都度管理者から注意を促し、ケアに臨む姿勢等を振返っている。特に排泄時や朝礼時の言葉遣いには日頃から配慮している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に声かけして意向を確認できるようにしている。意思表示をあまりされない利用者や意思疎通の出来ない方にも出来るだけ自己決定できるように説明し働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課は決まっているが、本人が起きない時は無理に起こしたり、入浴を無理強いしない等、本人のペースや意向に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者それぞれの能力に応じて、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化で食事介助や見守りが増えてきて配膳・下膳は職員が行うようになった。台拭き等は利用者と一緒に行っている。その日のメニューを伝えたり、季節感のある食事を提供している。嫌いな食材を外したり工夫している。月1回のおやつ作りはできない人が増えたことやコロナ感染対策の為実施していない月もある。	朝食は配食、昼・夕食は法人と同じ献立にて調理室で手作りされた食事を提供している。入居者の様子は本館職員へ伝えられ、個々の栄養面や行事食のリクエスト等は事業所からの相談で連携を図っている。ご飯は事業所で炊飯しており、硬さも数種対応している。飲み物提供時には希望を尋ねたり、行事時には希望でノンアルコールを提供する場も作り、選ぶ楽しみも作っている。	入居者の高齢化等により食事介助も増え、配膳等への関わりが難しくなってきている様子が聞かれました。以前は保存食作りや畑の野菜を使った一品を提供する等、食を生活の一部とし関わりを持ち支援を継続して来られたことを感じました。食事は入居者にとっても大きな楽しみですので、継続した支援に期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立の食事を提供しており、職員が食事・水分量を記録し各利用者の状態を把握し、必要な量を確保できるよう支援している。また、嚥下や咀嚼機能の低下により経口摂取が難しくなった時は、かかりつけ医に相談して適した食品を提供するとともに、その人に合わせた食事形態や水分を提供している。月一回の体重測定を行い栄養状態の確認をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全利用者に口腔ケアを行っている。口腔ケアの際は口腔内の観察を行い、歯科医師とも連携を取り、口腔ケアの指導を受けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの能力や排泄パターンを活かして定期的に誘導する。失禁が多くなった時は、気がけてトイレに誘導するように支援し、排泄の自立に向けた支援を行っている。日中は布パンツで夜間はリハビリパンツで対応したり、状態に合わせて工夫している。	声掛けや入居者の様子による誘導で出来るだけトイレでの排泄を支援している。入居者それぞれの毎日の様子は記録し、ケアに活かしている。日中はできるだけ布パンツを利用し、夜間はそれぞれに合わせた対応を行っており、安易なオムツへの移行は行っていない。トイレは車椅子でも利用でき、臭気や清潔にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師との情報を共有し、排便間隔が長い時は水分を多く提供したり、身体を動かしたり、腹部マッサージ等を行い、医師と相談して便秘薬の調整や坐薬の使用をすることで排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の曜日は決めてはいるが、1人ひとり利用者の意向を確認し、体調や気分に応じ入浴予定日を変更しており、個々に沿った支援を心掛けている。	週3回程度を基本とし、午前・午後とも入浴可能である。一般浴、座位が保てる方用、機械浴の3種の浴槽があり、全員が浴槽を利用できるよう使い分けしている。年々支援も必要となってきているが、出来るだけ入居者自身の持つ力を大切にした支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムを尊重し、日中でも眠そうな時は居室へ誘導する等状況に合わせて安眠や休息の環境を整えるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服管理は看護師が行い、処方箋をファイルに挟み薬の内容を介護職員にも理解できるようにしており、介護職員と看護師が連携して内服支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	グループホームでの生活に季節感を取り入れた行事を行い、それぞれのできること・できたこと等の役割を持ち、好きな音楽をかけたり、散歩をしたり、テレビを視聴したり、編み物をしたり、信者の方は祈りの会の実施等して日々を過ごしてもらっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人ひとりの外出希望の訴えはほぼ無い。買い物・地域の行事・季節のイベント・日帰り旅行等の外出支援はコロナの影響で外出する行事はできてないが、施設敷地内での散歩などは実施している。病院受診もご家族に支援して頂いており、外出する機会はあったが、コロナ対策で本人が外出せずご家族に内服受け取りを支援して頂いた時期もある。今年度は外出する機会がかなり少なかった。	例年、通院を利用した家族との外出や計画行事による外出等を支援しているが、今年度は感染症予防の面から難しい状況であった。敷地は四季折々の木・花を楽しむことができる環境で、敷地内の散歩は日常的に行っている。車椅子利用も多くなったが、フロアに続くデッキでくつろぎ外気を感じている。春の温かさを楽しみに、近隣へのドライブやデッキでのお茶会等を検討しているところである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は難しい方ばかりなので、お金の所持・使用は対応していないが、個別で何か必要なものがあれば家族に持ってきて頂いている。ご家族の希望で少額の預り金を行い、理解できる人には本人にも伝えて適宜職員が購入支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話を掛けたいと言われた時はできるだけ掛けるようにしている。本人宛にきた手紙は本人に渡したり、読んであげたりしている。また、職員と本人のコメントを載せた年賀状を家族に出すようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内には季節の花を活けたり、、行事の飾りつけを行っている。共用の空間、居室等は毎日清掃し使いやすいようにしている。室内も明るく、室温も過ごしやすい適温になるよう管理している。感染症対策で加湿器を設置し、定期的に温度、湿度、換気を確認している。	玄関を中心に左右に位置する両ユニットは明るく、掃除も行き届いている。敷地内外には季節を彩る木・花が見られ、温・湿度、換気にも配慮し心地よく過ごすことができる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	部屋に行きたい時は自由に出入りできるようにしており、ドアもあり、プライベートが守られている。利用者同士の会話に気を配り、気の合う人を隣に座ってもらったり、思い思いに過ごせるよう環境づくりに努めている。入居者同士のトラブルが起こりそうな時は別の場所に移動してもらったり、落ち着くように配慮している		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人にとって居心地のいい居室になるように、ご家族と相談しながら好きな家具や今まで使っていた物、写真等を飾り工夫している。特に人形やぬいぐるみが好きな方にはご家族に持って来ていただいたり、施設で準備したもので喜んで頂いている	居室入口には着物生地で作られた暖簾がそれぞれに下げられており、扉を開けた際のプライバシーへの配慮も見られる。持ち込まれた生活用品は以前から馴染みのある物で家族の関わりも感じる。洋風でありながらも鴨居もあり、和の雰囲気も持つ。地震に備えた家具等の配置にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かりやすいように張り紙もしている。車椅子の方でも自由に移動できるようドアを開けておいたり、障害物が無いようにしている		

2　目 標 達 成 計 画

事業所名：グループホーム聖母の丘
作成日　令和３年４月７日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目　標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	19 20 23 26 27 38 48	認知症の進行や重度化で一人一人のケアに時間がかかるようになり又意向確認も難しくなっている。そのような中コロナ禍で、面会自粛によりご家族の想いを聞き取り外出する機会も減っている。入居者個々の心身機能の低下を防ぎ、その人らしく生活していくための生活リハビリやレクレーション等の充実が求められていることを職員は再認識し実践していくことが必要である。	入居者の想いに寄り添い必要な支援を職員全員が認識し共有しチームケアを実践する。またコロナ禍に於いてのご家族との連携協力体制を再構築し一方的な情報発信にならないようにする。	①担当職員がしっかりアセスメント・モニタリングを行い、個別に必要な生活リハビリ等の支援を提案する。 ②両ユニットの職員で連携協力してレクレーションやストレッチなどの体操等を実践し食事前の嚥下体操を取り入れる。 ③入居者の日常的な活動風景を写真や記録に残し、定期的にお手紙を発送しご意見を伺う。又面会時にも日々の変化を口頭で伝え意向等の確認を行う。 ④コロナ禍の中でも入居者本人とご家族との関りが継続できるように、オンラインでの面会等を実施する。	12か月間
2	35	聖母の丘本館（特養・養護）との合同での防災訓練やグループホーム単独での避難訓練等は実施してきたが、本館職員や地域の方々との応援体制等については課題が多く確立できていない。また新たに入職した職員もいて全職員が非常災害対策できる知識や実践方法が身についていない。	感染症や災害が発生した場合を想定した非常災害対策の取り組みを行うとともに、まずは本館職員の救助体制が円滑にできるように環境を整備し、情報交換を行う。	①感染症や非常災害等を想定した訓練を実施し、問題点を把握して、マニュアル等の見直しを行う。 ②聖母の丘本館（特養・養護）職員の応援体制が円滑にできるように、入居者個々の避難体制（車椅子・歩行器・自立歩行等）を明示し定期的に更新する。	12か月間

注１）項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注２）項目数が足りない場合は、行を追加すること。